

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	－	－	－
	○	スーパー（店長）	来客数の動き	・夏季休暇や芸術祭開催により、人流が増加しているとみられる。
	○	スーパー（企画担当）	単価の動き	・新米の販売など高単価の商品が売上増加に寄与している。しかし、来客数は他社への買い回りなどがあり伸びは鈍い。
	○	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・バーゲンセール開催月であり、猛暑が収まる夕刻からの来客が多く、売上は前月比で増加している。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・エアコン等の季節商材に加えOSサポート終了前の需要で、パソコンの販売量が増加している。
	○	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・お中元シーズンであったこと、また、猛暑が続いたことから、飲物の販売が好調であった。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・前年度も好調に推移していたが今年の夏季繁忙期は更に良い。8月は、売上、来客数共に比較的好調であった前年を大幅に上回っている。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・8月は繁忙期であり、多くの来客があった。客単価も上昇しており、売上は目標を上回った。
	○	通信会社（支店長）	単価の動き	・高単価のプランを選択する客が一定数いる状況である。
	○	競艇場（マネージャー）	来客数の動き	・例年以上の猛暑により、屋内向けの遊興が上向いているとみられる。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・大規模な祭り、お盆などの時期であり、県外からの観光客とインバウンドの動きが活発であった。クルーズ船の寄港も影響が大きく、特に飲食店が好調であった。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・給与所得が増加する気配はなく、個人の資産増加要因は株価の上昇しか見当たらない。株価の上昇は都市の大小に関係なく影響を及ぼすことから、景気はしばらく恩恵を受けるとみられる。
	□	商店街（代表者）	単価の動き	・原材料費が少しずつ上昇しているなかで、販売価格への転嫁が難しい状況が続いている。人件費も最低賃金を上げる方向が示されているため、少しずつ上昇傾向に向かっている。厳しい状況が続いている。
	□	商店街（常務理事）	来客数の動き	・アジア系のインバウンドの減少傾向が6月頃から続いており、一部の店舗では売上にも影響が出ている。一方で、国内観光客が大幅に増加しており、商店街のにぎわいや活気は保たれている。株式市場が好調であり、高額商品の需要は堅調に推移している。一方で、一般消費者は財布のひもは固いままである。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・秋に向けた注文はあるが、受注量は減少している。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・物価高と猛暑の影響で、飲食店への客足が遠のき、納品量が減少している。
	□	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・為替の変動により、インバウンドによる売上が大幅に減少している。地元客への高額品販売は好調であるが、物価高の影響から前年の売上をわずかに上回る程度である。
	□	スーパー（統括担当）	販売量の動き	・来店数が減少しているが、客単価は上昇傾向にあり、経営的には安定している。しかし、消費者の節約志向は高まりつつあるとみられる。
	□	スーパー（人事）	販売量の動き	・値上げが続いており、客の消費行動は慎重である。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・急激な気温の上昇、猛暑により飲料などの販売は堅調だが、調理済み品の売上が厳しい。米、輸入肉などの価格も高止まりしている。

	□	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・異常な猛暑のためか来客数が減少している。物価高も続いており、地元の客はかなり買い控えがあるとみられる。
	□	衣料品専門店 (営業責任者)	販売量の動き	・前年度と同水準で推移している。顧客の動きは良いとはいえず、暑さにより来客数が減少している。
	□	乗用車販売業 (営業担当)	販売量の動き	・人気車種の再販売が開始されたが、台数限定でありすぐに受注停止になるとみられる。
	□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・車の販売台数及び客の購買意欲に大きな変化はない。
	□	タクシー運転手	お客様の様子	・景況感に大きな変化はみられない。祭りの開催時期には少し利用客が増したが、それ以外の時期においては実車率は低く、利用客はまばらである。
	□	通信会社(営業 部長)	販売量の動き	・お盆時期には帰省客による来客数増加を期待したが、増加はわずかであり、期待していた売上に到達しなかった。
	□	観光遊園地(主 幹)	来客数の動き	・前年同期並みで推移した。
	□	設計事務所(所 長)	単価の動き	・建築単価は高止まりのままであり、変化はない。
	▲	一般小売店[生 花](経営者)	お客様の様子	・物価上昇のため、お盆のお供え物を例年よりも安い商品で済ませようとする傾向がみられた。高齢化の進行、若い世代の墓離れ、猛暑、豪雨などにより墓参りを控える人が多かった。
	▲	スーパー(店 長)	来客数の動き	・来客数が前年割れしている。
	▲	スーパー(企画 担当)	来客数の動き	・近年の異常気象による気温上昇により、日中の店舗への来客頻度が減少している。また、集中豪雨などの急な天候変動による影響も受けている。
	▲	スーパー(財務 担当)	来客数の動き	・お盆前半に雨の日が多かったことから、来客数は前年以下となった。
	▲	コンビニ(店 長)	来客数の動き	・来客数が前年を下回っている。物価上昇により客単価は上昇しており、店舗を利用する客層が分かれてきたとみられる。
	▲	コンビニ(店 長)	来客数の動き	・物価上昇が続いており、売上は順調な推移ではあるが来客数がやや減少している。また、購買意欲が低下しており、余分な商品は買わない傾向にある。
	▲	コンビニ(総 務)	来客数の動き	・来客数が前年を下回っている。
	▲	家電量販店(副 店長)	販売量の動き	・エアコンは落ち着いているが、パソコンはOSのサポート終了により好調に推移している。全般的に大きな変化はない。
	▲	一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・売上が減少している。広告やキャンペーン等で何とか前年割れを防いでいるが、厳しい状況である。
	▲	都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・宿泊部門は比較的順調であるが、猛暑の影響からか飲食部門の動向が良くない。
	▲	旅行代理店(部 長)	販売量の動き	・日本人の国内旅行が下降傾向である。
	▲	美容室(経営 者)	来客数の動き	・期待していたほど客が動かなかった。暑さの影響で家から出られないという客の声が多かった。
	▲	美容室(経営 者)	来客数の動き	・高齢の客は昼間は猛暑で来店を控えているという声をよく聞く。実際、昼間の来客が少ないとみられる。
	×	一般小売店[書 籍](営業担 当)	販売量の動き	・店頭売上は前年並みだが、外商売上が前年を大きく割り込み、結果として売上減少となった。
企業 動向 関連 (四国)	◎	食料品製造業 (商品統括)	受注価格や販売 価格の動き	・販売単価が上昇し利益は出ているが、販売量は減っていることが懸念事項である。
	○	繊維工業(経営 者)	受注量や販売量 の動き	・連日の猛暑の影響もあり、店頭に出向く客が減少しているとみられる。汗を拭うためのタオルの購入が多くあり、タオルを扱う店のみならず他業種の店においてもよく売れている。
	○	金融業(副支店 長)	取引先の様子	・先行きの不透明感があつたものから、改善の兆しがみえてきている。
	□	木材木製品製造 業(営業部長)	受注量や販売量 の動き	・受注量が落ち込んでいる。8月は稼働日が少なく動向が良くない。

	□	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・前年販売数量を上回ることがなく、非常に停滞感がある。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・日本国内では、大規模工事が実施、計画されているが、慢性的なオペレーター不足や資材価格高騰等の影響がある。海外では、一部地域を除き、ここ数年の急速な需要増加傾向に落ち着きが見え始めている。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注が伸びていない。
	□	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注金額は大きくは変わらない。
	□	通信会社（総務担当）	それ以外	・自社での祭り参加者数は前年以下であったが、グループ会社では祭りへの参加を復活させたようである。景気は、前年より良くなっているようにみられる。
	▲	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・造船部門は良好に推移しているが、建設機械部門は4月辺りから低調である。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上がかなり落ち込んでいる。企業や大口客の購買意欲が低下している。株価は回復しており、気持ちの面では幾らか余裕はある。
	▲	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・大手企業は堅調だが、中小企業からテレビCM作成依頼が減少している。
	×	—	—	—
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・求職者の動向に左右されるとみられる。
	□	職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・世界経済は緩やかな回復局面にあったが、米国の関税政策により景気は後退するとみられる。国内でも米国による関税政策を受けた輸出の減少や、中国との競争激化の懸念もあり、景気に不透明感が増しているという声がある。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・有効求人倍率を見ても横ばいからやや減少傾向にあり、景気が上向いている傾向はないとみられる。
	▲	人材派遣会社（オフィス責任者）	周辺企業の様子	・動きが停滞している企業が多い。人手不足もあり、新しい取組も見られない。
	▲	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・新卒採用、中途採用とも求人数は多い状態であり、求人倍率も高い。求人倍率が高い状態が景気が良いとされるが、長期的な人手不足、人件費高騰により中小企業では業務が予定どおり進まない企業も多く、特にサービス業においてはその状況が強いとみられる。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・民間企業のマス広告はわずかではあるが減少が続いている。
	×	—	—	—